

【資 料】

北星学園大学ラーニング・コモンズにおける 学習支援サービスと今後の課題

永 井 暁 行
廣 川 和 貴
米 谷 さくら
中 村 和 彦

北星学園大学ラーニング・コモンズにおける 学習支援サービスと今後の課題

永井 暁行 廣川 和貴 米谷 さくら 中村 和彦
Akiyuki NAGAI Kazuki HIROKAWA SAKURA YONEYA Kazuhiko NAKAMURA

目次

1. はじめに
2. 北星学園大学ラーニング・コモンズの施設概要
3. 運営の方針
4. 学習支援プログラムの提供
5. 学習支援プログラム利用状況の推移
6. 今後の課題
7. まとめ

1. はじめに

近年、本邦の大学教育において、ラーニング・コモンズの整備が進んでいる。ラーニング・コモンズを整備している大学は2011年では全国257大学であったが、2015年では全国482大学であり、その数は約1.88倍となった(文部科学省, 2017)。ラーニング・コモンズとは、「ネット世代の学習支援を行う図書館施設もしくはサービス機能」と定義されており(小山, 2012)、従来の図書館で行われていたリファレンスサービスよりも広範な

支援が整備され、必ずしも図書館を中心としない学習環境の提供を特徴とする(Turner, Welch, & Reynolds, 2013)。

ラーニング・コモンズの役割は学習スペースの提供に留まらず、利用者の学習活動を支援するサービスの提供という点も指摘されている。学習支援サービスの例として、コンピュータの利用に関する支援やライティング支援などがあげられている(Daniels & Barratt, 2008; Massis, 2010)。このような施設等のハードウェアだけでなく、提供されるサービスもラーニング・コモンズの重要な構

キーワード：ラーニング・コモンズ, 学習支援, 大学教育

Key words : Learning Commons, learning support, College and University education

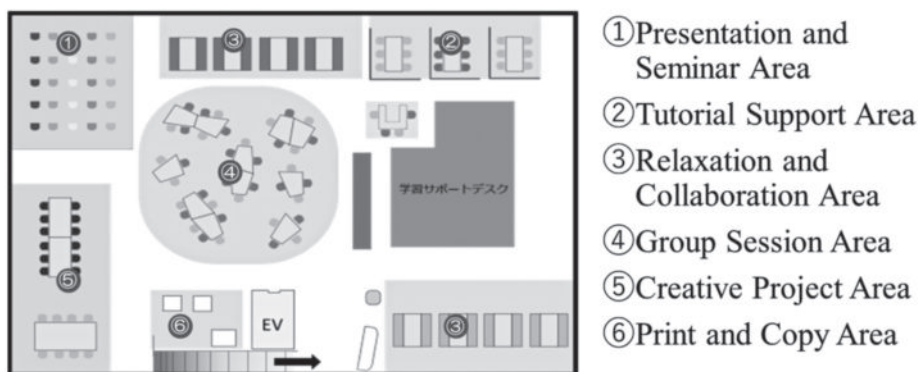


図 1 北星学園大学ラーニング・コモンズ内エリア

成要素であることが指摘されている (米澤, 2008)。

そこで本稿では、北星学園大学ラーニング・コモンズにおける運営方針を概観し、提供される学習支援サービスの成果と今後の課題について議論する。

2. 北星学園大学ラーニング・コモンズの施設概要

まず、北星学園大学に整備されているラーニング・コモンズの施設概要について述べる。

北星学園大学においては、2015年10月1日より、大学図書館とは別棟にラーニング・コモンズが開設された。

講義用の教室を備えた建物や大学図書館とは独立した2階建ての建物の、2階部分がラーニング・コモンズとして運営されており、ラーニング・コモンズの面積は682.5 m²であった。ラーニング・コモンズ内には以下の計6エリアが設定された。各エリアの名称は (1)Presentation and Seminar Area, (2) Tutorial Support Area, (3) Relaxation and Collaboration Area, (4) Creative Project Area, (5) Group Session Area, (6) Print and Copy Areaである (図1)。

以下に各エリアの特徴を示す。

(1) Presentation and Seminar Area

ラーニング・コモンズ内ではこのエリアのみガラスによって仕切られた空間になっている。プロジェクターが設置されており、プレゼンテーションの練習や、後述する学習セミナーなどに用いられることが多い。プロジェクターを投影するスクリーンは電子黒板・ホワイトボードを兼ねており、それらを使ったアクティブラーニングにも用いることができる。また、本エリア内の椅子は可動式のもので採用されており、色ごとのグループ分けができるように配慮されている (図2)。このエリアは1か月前から予約が可能である。

(2) Tutorial Support Area

本エリアは衝立により仕切られており、他者からの視線を遮った状態での学習に活用できる (図3)。仕切られたスペースは3つ作ら



図 2 Presentation and Seminar Area

れており、各部屋に机、椅子（6脚）が備え付けられている。3つのスペースの内、2つのスペースにはホワイトボードを、1つのスペースはホワイトボードを兼ねる電子黒板を設置している。このエリアも1か月前から予約が可能である。



図3 Tutorial Support Area

(3) Relaxation and Collaboration Area

本エリアは3人掛けのソファを対面式に設置している。8席が用意されており、図1上部と図1右下部に分かれて配置されている。図1上部側の4席では大型ディスプレイが各席に用意されており、パソコン画面の共有やBlue-ray Discの再生に利用できる（図4）。また、図1右下部の4席ではホワイトボードが利用できる。



図4 Relaxation and Collaboration Area

(4) Group Session Area

本エリアはラーニング・コモンズの中央に位置するエリアである。学習スタイルに合わせて自由に動かせる可動式の机、椅子を使うことができる（図5）。机は12台、椅子は40脚が用意されている。



図5 Group Session Area

(5) Creative Project Area

本エリアでは他エリアよりも大きい机を6台設置している。ここではポスターの作製など大きなスペースを要する創作活動や、議論に参加する人数が多い時に利用されることを想定している（図6）。



図6 Creative Project Area

(6) Print and Copy Area

本エリアではカラー印刷に対応したプリンタを2台設置している。これらのプリンタにはラーニング・コモンズ内ならどのエリアか

らでもアクセスすることができ、A4・A3の用紙への印刷ができる。また、有料のコピー機も設置しており、印刷物を複製する際にはこのコピー機を使うことができる¹⁾。

北星学園大学のラーニング・コモンズでは、以上の6エリアが設置されている

3. 運営の方針

北星学園大学ラーニング・コモンズは、学生のための学びの空間として整備された。広く学科を問わず自主的な学習の場として機能することを目指している。そのため、学習に関係のない活動での利用はできない。たとえば、サークルや部活動での利用や、雑談・食事のための利用は禁止されている。また、利用者は北星学園大学の学生に限っており、学外者の利用は原則禁止されている。教員についても利用に制限があり、教員のみもしくは教員主体の利用はできない。教員の利用は学生が自主学習の際に教員をラーニング・コモンズに呼び、指導や支援を受けるという目的と後述する学習支援プログラムに関する場合に限られる。加えて、講義やゼミを行う場としてラーニング・コモンズを利用することはできない。これらの制限は学生が主体的に学習する場として、ラーニング・コモンズが機能するために設けられた。以上のように、ラーニング・コモンズでは常に学生の自主的な学習が優先され、そのため学生以外の利用を原則禁止としている。

ラーニング・コモンズの開館時間は(表1)

表1 北星学園大学ラーニング・コモンズの開館時間および閉館時間

	開館時間	閉館時間
授業期間内		
平日(月～金曜日)	9:00	21:00
土曜日	10:00	17:00
日曜日・祝日	10:00	17:00
授業期間外		
平日(月～金曜日)	9:00	21:00
土曜日	10:00	17:00
日曜日・祝日		閉館

に示す通りである。平日は9時から21時を開館時間としており、休日は10時から17時と短時間になる。また授業期間外の日曜・祝日は休館日である。その他、一斉休業期間や入試日なども休館日になる。

いずれのエリアでも利用学生の会話が可能であり、軽食と飲み物を取ることが許可されている。これは、長時間にわたり学習できる環境を維持するために飲食が必要となることから認められている。

ラーニング・コモンズの運営に携わるスタッフは2015年度から2017年度においては専任事務職員1名、非常勤助手2名、臨時職員2名の計5名であった。2018年度からは非常勤助手が1名になり、専任教員(助教)が1名加わった(表2)²⁾。

表2 北星学園大学ラーニング・コモンズの運営スタッフ(2018年度)

身分	人数	役割
専任事務職員	1名	関係各所の調整 予算管理 北星ピア・サポーターのマネジメント 各種事務手続き
助教(教員)	1名	学習サポートセンターの取り組みに関する研究 学習支援計画の策定 学習セミナーの企画、実施 個別学習支援に関する関係各所の調整 北星ピア・サポーター研修の企画、実施
非常勤助手(事務職員)	1名	学習支援計画の策定 学習セミナーの企画、実施 個別学習支援に関する関係各所の調整 北星ピア・サポーター研修の企画、実施
臨時職員(事務職員)	2名	各種受付 ラーニングコモンズ運営補助(掲示物作成、データ集計など) ラーニングコモンズにおける各取組の広報

ラーニング・コモンズでは設備・備品を学生が利用できる。それぞれのエリアで利用できる備品として、ノートパソコン、タブレット端末、ヘッドホン、プロジェクター、移動式ホワイトボード、はさみ・のり等文具セットなどの貸し出しが行われている。また、大型モニター、備え付けホワイトボード、印刷専用パソコン、カラープリンタ、無線LAN、電子黒板が備えてあり、学生は随時これらの設備を使うことができる。

4. 学習支援プログラムの提供

ラーニング・コモンズでは、学習支援を目的としたサービスの提供が行われることが多い(Turner, et al., 2013)。北星学園大学ラーニング・コモンズにおいても、学生のニーズに即した学習支援プログラムを提供している。学習支援プログラムは大きく以下の3点に分けられる。(1) 個別学習支援, (2) 学習セミナー, (3) 個別学習相談である。以下に各学習支援プログラムの特徴を示す。

(1) 個別学習支援

個別学習支援は、学生の自主的な学びを支援することを目的として実施されている支援である。講義で分からなかったこと、学習する上で困っていることに対して、教員から個別の支援を受けられる。個別学習支援は統計アワー、日本語ライティング、ランチタイム数楽、プレゼン・トレーニングの4種が用意されている(表3)。プレゼン・トレーニングを除き、各支援は授業期間中に実施されており、週に2~5回支援時間が設けられている。プレゼン・トレーニングについては、利用希望の申請があった際に、利用者の希望時間に合わせて実施される。

表3 個別学習支援の一覧

名称	担当	目的	内容
統計アワー	教員	統計能力の向上	統計手法の解説・分析手法の選択・結果の見方等の解説
日本語ライティング	教員	自立した書き手の育成	文章の作成前の文献探しや作成中・完成後の推敲などの支援
ランチタイム数楽	教員・学生サポーター	数学を基礎から楽しく学び直す	参加者の能力・学習進度に合わせた数学の問題への取り組み、教員からの解説・助言
プレゼン・トレーニング	助教・助手	プレゼンテーション・発表力の向上	発話姿勢、発表内容の分かりやすさ、資料の構成などの指摘・助言

表4 学習セミナー一覧

セミナー名	実施年度	概要
Officeの基本	2015	Word, Excelなどの使い方
アイスブレイク	2015-2016	アイスブレイクの紹介と体験
イメージ・マップ	2015-2018	考えやアイデアの整理方法などを体験する
ノート・テイキング	2015-2018	ノート・メモを取る上でのコツを学ぶ
プレゼン構成力	2015-2018	効果的なプレゼンの作り方を学ぶ
ネットコミュニケーションスキル	2016	メール・インターネットのマナー等
考える力	2016-2018	論理的に考えるための手順を学ぶ
伝える力	2016-2018	意見や考えなどを分かりやすく伝えるためのスキルを学ぶ
疑う力・見なおす力	2016-2018	批判的な思考力とは何かを体験する
メールの基本	2017-2018	メールの基本的なマナーなどを学ぶ
卒論・ゼミ論準備セミナー(心構え編)	2018	卒論を書き始める上での心構えを知る
データを読む・扱う力(統計セミナー)	2018	統計の基礎を学び、統計リテラシーを身につける

(2) 学習セミナー

大学生活やその後の社会生活で役立つスキルを紹介し、それを体験できるセミナーを助教・助手が実施している。所属学科、学年、履修科目等の違いによらず活用できる汎用的な学習スキルについて学ぶことを目的としている。学習セミナーで扱ったテーマは2018年度までに12種類にのぼり、学生の要望やスタッフ内の会議等により毎年検討し、実施している(表4)。

(3) 個別学習相談

個別学習相談ではラーニング・コモンズに9:00~19:00に常駐する助教・助手に学習上の問題や悩みについて相談する機会を提供している。学習相談は学生が主体的に学習を進めるための支援として位置づけられており、課題の解答や解法などを直接教えることはしていない。また、講義等の内容に踏み込む支援や専門的な内容については原則として直接支援せず、これらの内容については専任教員から指導を得られるように助言をする。主な相談の内容として、学習方法の相談、パソコンの操作、メールを送る上での相談(メール文の添削等)などがある。

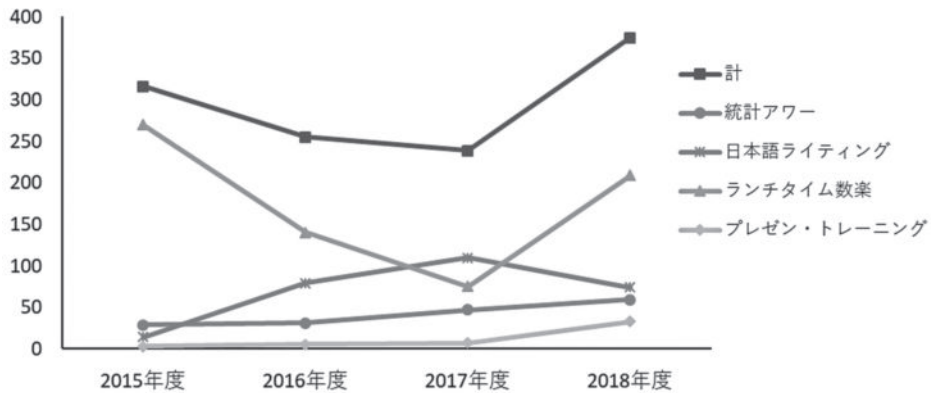


図7 個別学習支援の利用者推移

5. 学習支援プログラム利用状況の推移

北星学園大学ラーニング・コモンズで提供される学習支援プログラム利用状況の推移を以下に示した。

(1) 個別学習支援の利用状況

個別学習支援の利用者数の推移を図7に示した。

個別学習支援の利用者数は2017年度まで減少傾向にあったが、2018年度にまた増加している。これはランチタイム数楽、プレゼン・トレーニングの利用者が増えたためである。個別学習支援は同じ学生が継続して利用することが多い。特に数学力の向上や、プレゼンの質向上は繰り返し学習していくことで学習の成果が表れやすくなる。2018年度にはランチタイム数楽とプレゼン・トレーニングが繰り返し利用されることで、ラーニング・コモンズにおける学習活動の充実を支えたことが分かる。

(2) 学習セミナーの利用状況

学習セミナーの利用者数の推移を図8に示した。学習セミナーの利用者は2016年度のみ突出して多いが、2016年度を除くと微増している傾向にある。

(3) 学習相談の利用状況

学習相談の利用者数の推移を図9に示し

た。学習相談の利用者数は、増加傾向にあることが分かる。また、学習相談における相談時間について、各年度の特徴を表5にまとめた。年度を追うごとに、相談時間が長くなっている傾向にあり、2017年度および2018年度においては1度の支援時間が3時間を超えることもあった。

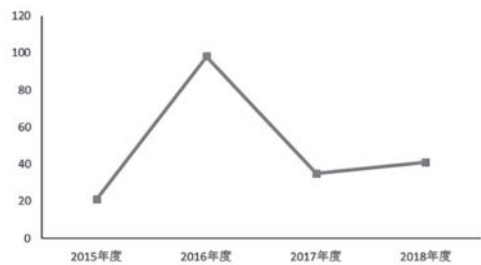


図8 学習セミナーの利用者推移

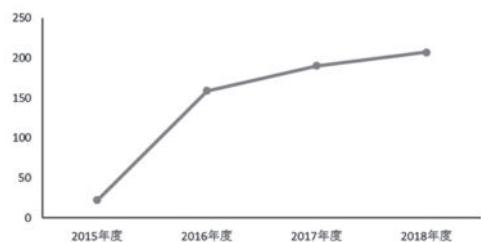


図9 学習相談の利用者推移

表5 年度別平均相談時間 (単位:分)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	総計
平均値	27.55	17.84	23.91	31.43	24.85
標準偏差	26.39	23.61	32.75	36.12	31.49
最小値	3.00	1.00	1.00	1.00	1.00
第1四分位	10.00	5.00	5.00	5.00	5.00
中央値	15.00	10.00	10.00	15.00	10.00
第2四分位	41.25	22.50	30.00	45.00	30.00
最大値	90.00	150.00	200.00	200.00	200.00

6. 今後の課題

北星学園大学ラーニング・コモンズは2015年10月1日に開設し、2018年度で3年以上運営されている。利用者の増加に伴い、学習支援プログラムに求められる支援範囲が多様化している。このような現状から、学習支援プログラムの提供において以下の3点の課題が浮き彫りになってきた。

(1) 人的資源の活用

ラーニング・コモンズで提供されている個別学習支援は、非常勤の教員を除き専任教員の自主的な協力によって成立している。2018年度までは教員の協力によって、個別学習支援を提供できていたが、協力教員の都合等により学習支援プログラムとして維持することが困難になる可能性がある。

学習支援プログラムのうち、学習セミナーはこれまで助教・助手が提供してきた。学習セミナーは学科を問わない汎用的な学習スキルを体験する時間を提供してきた。これに加えて、助教・助手という資源を活用し、これらの職に就くスタッフの専門に関する支援を提供することはできる。しかし、専門的支援を助教・助手が行う場合、これらのスタッフの専門に近い特定の学科に支援の偏りが生じる恐れがある。前述のように、北星学園大学ラーニング・コモンズでは、学科を問わず自主的な学習の場となることを目指しているため、特定の学科のみ支援が手厚くなるという状況への変更については議論を要する。

(2) 正課との境界

北星学園大学ラーニング・コモンズでは、

正課との連携にも課題を抱えている。ラーニング・コモンズで受けられる支援は、いずれも学生が自主的に利用することを前提に提供されている。しかし、ラーニング・コモンズの支援を用いることによって、個々の教員が指導すべき学習をラーニング・コモンズに頼るという状況も生まれかねない。個別学習支援の方針について教員の理解を得て、学生の自主的な学習を促す取り組みが必要とされる。

繰り返しになるが学習セミナーは、学科の専門に捉われない汎用的な学習スキルの習得を目指すものである。したがって、いずれの専門を学ぶ学生にとっても、学習スキルの習得はその後の学習活動を有意義にするものと言える。学習セミナーで扱うテーマの習得を促すには正課の中で、これらのスキルを位置付けることが期待される。特に初年次教育や学習活動のステップアップには、この学習セミナーで扱うテーマに触れることで、その後の学習が促されるであろう。

ラーニング・コモンズの学習セミナーで扱うテーマの取捨選択は柔軟に行われている。そのため、最新の手法や学生・教員の要望に迅速に議論し、対応できる。しかし、そのために扱うテーマは正課の学習と必ずしも一致しない。学習セミナーを多様に展開し、学習の機会を提供することは学生の学習活動を発展させることに寄与すると考えられるが、一方で正課の予習・復習の時間を削ることにもなり得る。単位の実質化において、特に講義時間外の学習時間の重要性については繰り返し指摘されてきた(野田・渋井, 2016)。正課の学習時間を十分に確保できていないことが指摘されている現在、正課外学習である学習セミナーに参加することによって、さらに正課における学習時間の減少を促すことのないようにしなければならない。

(3) 合理的な配慮

特に個別学習相談においては、それぞれの

課題を抱えた学生の相談が生じる。学生の抱えている課題は多岐に渡り、ラーニング・コモンズでは、自主学習の範囲内で支援をしている。学生の課題によっては、支援が長時間・長期間に渡ることもある。その結果、他の学生への支援時間を確保することが困難になったり、助教・助手の他の業務に差し障ったりする状況が生じる。

また、ラーニング・コモンズで支援できる範囲は授業外の自主的な学習に限られており、学習相談で支援できる内容と、学生の学習活動全般に必要な支援に乖離があることも少なくない。学習上の困難について教員に相談できなかった学生や、学生からの相談を受けた教員を介してラーニング・コモンズの学習相談を利用するケースもあり、いかに全学的に学習活動を支援するための体制を整えるかが大きな課題である。

7. まとめ

本稿では、北星学園大学ラーニング・コモンズの運営方針について概観し、当該施設で提供されている学習支援プログラムの現状と課題について述べた。

北星学園大学ラーニング・コモンズは学生の自主的な学習活動を支援するための施設として運営されている。学習活動を支援するために、複数の学習支援プログラムが提供されている。それぞれの学習支援プログラムの利用者は増加傾向にある。利用する学生の状況を踏まえて、学習支援プログラムを提供し、かつ維持していく必要がある。

今後の課題として、人的資源、正課との境界、合理的な配慮の3点について議論する必要性を述べた。これらの課題について検討していく上では、ラーニング・コモンズ内での議論に留まらない全学的な連携を必要とする。現在の個別学習支援の維持にあたっては、教員の自主的な協力を頼るところが大きい。

現状の学習支援プログラムを維持していくためには、教員が継続して協力できる体制を整える必要がある。また、それぞれの課題を抱えている学生の支援にあたっては、ラーニング・コモンズだけで完結するものではなく、正課を担う教員や医務室、学生相談室など関連する部署との連携が不可欠である。ラーニング・コモンズにおける学習支援プログラムを維持または発展させていくためには、学内の様々な教職員が連携し資源を提供し合っていく必要がある。

〔謝辞〕

本論文の執筆にあたり、各種集計データを提供して下さった北星学園大学学習サポートデスクの皆様にご心より感謝申し上げます。

〔文献〕

- Daniels, T. & Barratt, C. C. (2008). What is common about learning commons? A look at the reference desk in this changing environment. In Steiner, S. K. & Madden, M. L. (Eds.), *The desk and beyond: next generation reference services* (pp.1-13). Chicago: ACRL.
- 小山憲司(2012). 国内の大学図書館におけるラーニング・コモンズの現状. 加藤信哉・小山憲司(編著) *ラーニング・コモンズ—大学図書館の新しいかたち—*. 勁草書房, pp.203-269.
- Massis, B. E. (2010). The academic library becomes the academic learning commons. *New Library World*, 111, 161-163.
- 文部科学省(2017). 平成27年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)
- 野田文香・渋井 進(2016). 「単位制度の実質化」と大学機関別認証評価 大学評価・学位研究, 17, 21-33.
- Turner A, Welch B, & Reynolds S. (2013). Learning Spaces in Academic Libraries - A Review of the Evolving Trends. *Australian Academic & Research Libraries*, 44, 226-234.
- 米澤 誠. (2008). ラーニング・コモンズの本質: ICT時代における情報リテラシー/オー

ブン教育を実現する基盤施設としての図書館.
名古屋大学附属図書館研究年報, 7, 35-45.

-
- ¹ プリンタの利用は1部までと制限されているため、複製はコピー機で行う必要がある。
 - ² 専任事務職員以外は、任期付きのスタッフである。

